

平成 24 年度

A 日程 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は、1 ページから 12 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。

共立女子中学校

一、次の1～8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 スポーツのサイテンといえはオリンピックだ。
- 2 ある証拠から兄のケツバクが証明された。
- 3 映画からヒツウな思いが伝わる。
- 4 ナタネの油は香りがよい。
- 5 交通安全を呼びかけるオウダンマクをかかげる。
- 6 事実が白日のもとにさらされた。
- 7 自分のことを客観的に見られるようになった。
- 8 苦しい時でも、気高い心を忘れない。

二、次の□の中の五つを、すべて漢字の一部として組み合わせて使い、二字の熟語を作ります。その二字の熟語の対義語となる熟語を後からそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

(例) 立木 七 見 刀

ア 冷淡
イ 円満
ウ 延長
エ 許可
答え ア

「立」と「木」と「見」で「親」、
「七」と「刀」で「切」、
となるため、「親切」という二字熟語ができます。
「親切」の対義語はアの「冷淡」ですから、答えはアとなります。

1 月糸 王色 亡

ア 希望
イ 明白
ウ 目標
エ 絶対

2 牛刀 角刀 八

ア 過失
イ 添加
ウ 暗黒
エ 合成

3 木王 目心 里

ア 原因
イ 現実
ウ 社会
エ 本能

4 日口 皿力 月

ア 退場
イ 食事
ウ 脱退
エ 肯定

三、次の詩を読み、後の問いに答えなさい。

寒ぶなのうた

みやざわ しょうじ
宮澤 章二

うごかないように見えて
すこしずつうごく

① 思いだしたように時折りうごく

寒の季節のふなたち

表面がこおった小川も

氷の下には水が流れている

澄みきった水がゆつくり流れている

② 絶えることのない生命力だな

つねに輝きを失わぬものたち

水もふなも生きる執念の③だ

うごかないように見えて

すべてがすこしずつうごくのだ

暦に記された「④」の光る喜びも

⑤ ある日とつぜん来るのではない

（『行為の意味 青春前期のきみたちに』ごま書房新社による）

1 線①「寒の季節のふなたち」とありますが、この連では「ふなたち」のどのような様子をあらわしていますか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

ア 寒さに動くことができず、死んでいくふなたち

イ 春を待ちきれず、早くも活発に動き出すふなたち

ウ 氷に閉じ込められて身動きできないふなたち

エ 動きを少なくして、命を保ち続けるふなたち

オ 極寒の中で、泳ぐことを忘れてしまったふなたち

2 線②「絶えることのない生命力だな」とありますが、これは何についていっていますか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

ア 光を受けてキラキラと輝く氷

イ 冬の寒い小川にいるふなたち

ウ 完全に凍ることのない小川の水

エ ふなを見ている人間

オ 小川の水とふなたち

3 ③にあてはまることばとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 美しさ

イ はかなさ

ウ 冷たさ

エ 悲しさ

オ もろさ

4 ④にあてはまることばとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 元旦

イ 立春

ウ 七夕

エ 夏至

オ 冬至

5 線⑤「ある日とつぜん来るのではない」というのは、どのようなことをいっていますか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

ア 光る喜びの日のためには、ひたむきに営みを続けながらたえて待つ時間が必要だ。

イ 何もせず川の中をゆつくり流れていけば、いつしか光る喜びの日に到達するはずだ。

ウ 光る喜びの日がすでに来ているのに、寒ぶなたちはまったくそれに気づいていない。

エ 光る喜びの日は少しづつ訪れ、死んだ生命がしだいによりがえっていく。

オ 寒ぶなが光る喜びの日を予告するので、その訪れはとつぜんではないのだ。

四、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ポーランド語のかた言もわからないうちに、毎日の生活はいや応なくはじまります。そこでわたしは、目を大きくあけて、何が、どんなものが、どんな値段で売られているのか、^(注1)ワルシャワの街の探検を仕事としました。すぐに気づいたのは靴下の修理屋さんが実に多いことでした。靴直し屋さんの隅、日用雑貨店の片隅などに、机と椅子を据え、小さな卓上スタンドひとつを頼りに一心に手先を動かして、デンセンした部分を繕っている女の人の姿は、終戦から数年間の東京の風景に似ていて、古い^(注2)活動写真を見るようです。

ワルシャワではストッキングが高いからたつぷり用意してくることに、といわれて、わたしは欲ばって五ダースのナイロン靴下を引越し荷物に入れました。靴下の関税は一足が^(注3)八十ズロチ（当時ほぼ一足の小売り値相当）とかで、五ダース分を払えと迫られて、気が遠くなった時、主人が弁明してくれました。毎月一足の靴下が駄目になるとして、一年で一ダース、五年間は現職にとどまるであろうから、五ダースという数字は妥当な持ちこみである、ましてや日本語講師の給料はこれこれであって、女房の靴下も買えないと考えたゆえに、わざわざ用意して来たのである、うんぬん……。

税金は支払わずにすみましたが、ひたすら靴下のデンセン病を繕っている修理屋さんの手もとを見てみると、物があふれ、物をそまつにしている日本からやってきた人間としては、笑っては通りすぎせないのです。

これが、^①私の目で見、体で感じたはじめてのポーランドという国の現実でした。一九六七年から七年経ち、一九七四年の帰国の頃には、靴下の値段は三分の一にさがり、品物も豊富に出まわっていました。それでも^②修理屋さんは、依然として街のあちこちにちゃんとあって、結構繁盛しています。

気をつけてみるとワルシャワには実にさまざまな修理屋さんがありました。無数にある時計の修理屋さんは別として、ハンドバッグの修理屋、傘直しから陶器の修理、絨毯の繕い、家具の修理、お人形病院といろいろです。一番大きなのは自動車の修理屋でしょう。追突されてへこんだところなど「ポーランド人の手にかかったら、一発ですごくきれいになっちゃうんだ、たたいて直す鍛金技術は抜群！」と^③息子は自分のことのように自慢したものです。

日本の^(注4)建具屋さんや畳屋さん、^(注5)経師屋さんの店さきに似ている修理屋さんの仕事のことを、ヴァルシユタットということもわかってきました。

ある日、ハンドバッグの手がこわれて、飛びこみで入った修理屋さんは、お鍋や^(注6)サモワールが半地下のガラス窓を通して

みえる小さなヴァルシユタットでした。六十歳くらいになるかと思われるおやじさんと、それより少し若い職人さんの二人の工房です。^④お門違いの直しを持ちこんだ日本人のかた言を面白がったのでしょいか、いやな顔もせずとその場で直してくれました。そしていろいろ日本のことをききたがります。いい国だ、立派な国だ、技術がすばらしい、豊かな国だ、とこちらがはずかしくなるようなほめ方です。ほめられて悪い気はしないもの。これが^⑤で、ボロ市で安く買った^(注7)赤銅のお鍋やフライパンの^(注8)錫引きを持ちこみました。一週間すると、今まで飾り物だった分厚い赤銅のお鍋が、ちゃんと使いものになります。煮こみ料理に最適のこのお鍋の使いよさは特別で、昔の人はいいものを使っていたものだと思心してしまいました。

コシコバの市場（市中央部の大きな市場）へ出かける時など、ちよっとくたびれ休めに、このヴァルシユタットに寄ったものです。若い頃、さぞ美人だったろうと思われる粋なおかみさんはなかなか勢いのいい人。わたしのもたもたする言葉などにおかまいなく、まるでポーランド人同士のように早口でざくばらんに話します。外人を外人扱いしないところが、ポーランド人気質なのではないか。そこのお店の木の長椅子に坐って、紅茶などごちそうになりながら、わかったような、わからないような、あいまいなあいづちを打ったりしているわたしは、^⑥東京の下町のおかみさんと、なにやら面白おかしく噂話に興じているような気分になってくるのです。

ホーロー引きのお鍋の穴をふさいでと持ってくる中年の奥さん。日本だったら当然ゴミ箱入りのものですが、濃い藍色のホーローの色からみて今どきのものではありません。捨てるに捨てられない愛着のあるものだったのでしょ。古い銀製の燭台のはずれたとっ手を持ちこむ人、銀の砂糖入れの鍵直し。昔の砂糖入れは鍵がかかるようになっていたのは驚きました。お砂糖が貴重品の時代、召使いたちがなめないようにしたためだとききました。ここは、^(注9)よろずイカケ屋のヴァルシユタットなのでした。

ワルシャワは第二次大戦で破壊されつくした街です。日本のように、物を田舎に移したあの疎開などということを、ここもやったのでしょいか。よそ者のわたしには、その辺の事情はわかりません。この小さなヴァルシユタットに持ちこまれる焼け残りの物や、古めかしいもの、それらをほんとうに大切に作るポーランド人を見てみると、^⑦失われたものの大きさがどれほどか、想像できるような気がしました。

- 注1 ワルシャワ Ⅱ ポーランドの首都
 注2 活動写真 Ⅱ 映画
 注3 八十ズロチ Ⅱ 「ズロチ」はポーランドの通貨の単位
 注4 建具屋 Ⅱ 障子やふすまや戸など、部屋を仕切るものを取りあつかう店
 注5 経師屋 Ⅱ 書や絵などを飾れるようにして仕立てる職人のいる店
 注6 サモワール Ⅱ 銅や銀などの金属でできている卓上湯沸かし器
 注7 赤銅 Ⅱ 銅に金や銀を混ぜた金属
 注8 錫引き Ⅱ やわらかくてさびにくい銀白色の金属である錫で表面を加工すること
 注9 よろずイカケ屋 Ⅱ いろいろな金属製品の壊れた部分に新しい金属を流しこんで修理する店

1 線①「私の目で見、体で感じたはじめてのポーランドという国の現実」とありますが、具体的にはどのようなことですか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

- ア ものの値段が日本とは異なる上、なかなか新しいものが手に入らない。
 イ 税関が厳しく、関税が高いため、物品の輸入が制限されている。
 ウ 税関に対して長々と抗議をしなければ、よいように税金を取られる。
 エ 靴下は手先の器用な修理屋が修理をして、長く愛用する習慣がある。
 オ 外国人の労働賃金は安く、まして言葉が不自由であると働けない。

2 線②「修理屋さんは、依然として街のあちこちにちゃんとあって、結構繁盛しています」とありますが、それはなぜですか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

- ア ポーランドの人は、ものが豊富にあっても簡単に品物を手に入れられるような経済状態にないから
 イ ポーランドの人はみな、手先が器用であり、物を修理することがもともと得意な人々だから
 ウ ポーランドでは、もともと小売店よりも修理屋の方が多く、昔からある店のほうが信頼を得ているから
 エ ポーランドの人は安価な物を買うことはできたが、高価な物はやはり修理するしかなかったから
 オ ポーランドでは、新しい物を買うことよりも古くからある物を使い続けることのほうが好まれるから

3 線③「息子は自分のことのように自慢したものです」とありますが、ここから息子のどのような様子が読みとれますか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

- ア 自動車が出発しても平気だと高をくくっている様子
 イ 自動車修理工に自分がなりきっている様子
 ウ ポーランド人にライバル心を持っている様子
 エ ポーランドになじみ、親愛の気持ちを持つ様子
 オ 日本人であったことをすっかり忘れている様子

4 線④「お門違い」とありますが、具体的にはどのようなことですか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

- ア ポーランド語がうまく話せないにもかかわらず店を訪れたこと
 イ なじみ客でないのに、急にこの店を訪れたこと
 ウ 修理してもらった対象の種類が異なっていたこと
 エ 外国人が入り込む店ではなかったこと
 オ 高級品を扱う店ではなく、日用品の修理屋であったこと

5 ⑤と同じことはが次の□にあてはまる慣用表現を、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア □もゆかりもない イ □きわまる ウ □腰を入れる エ □をのむ オ □をつぶす

6 線⑥「東京の下町のおかみさんと、なにやら面白おかしく噂話に興じているような気分」とありますが、このような気分になったのはなぜですか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

- ア おかみさんの雰囲気（ふんいき）で言葉の意味が飲み込め、話がよくわかるから
 イ おかみさんの気の置けない気さくな話し方に、親しみを感じるから
 ウ おかみさんがわたしに合わせて、次々と勢いよく近所の噂話をするから
 エ わたしが言葉でもたもたしていると、気をつかってわざと無視してくれるから
 オ おかみさんには美人だった面影（おもかげ）が残っており、その昔をしのばせるから

7 線⑦「失われたものの大きさがどれほどか、想像できるような気がしました」とありますが、これはなぜですか。次の中からふさわしいものを選び、記号で書きなさい。

- ア 第二次大戦の時に日本でも物を疎開させた経験があるから
 イ ワルシャワは破壊しつくされて当時のものは何も残っていないから
 ウ 外国人にも親切にしてくれるヴァルシュタットがあるから
 エ 日本ならゴミ箱入りのものも修理して使い続ける節約家だから
 オ 残された古いものを捨てようとせず、愛着を持って使っているから

五、次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ところが最近、この新聞を読む人の数が減っています。

①ア

「難しく、読んでもわからない」

「毎日取っている、きちんと読む時間がない」

「インターネットの情報で充分」

そう言うて新聞を取らない人の話を聞いたときに、もったいないなあと思います。

①イ

まず「新聞は難しい」という声について。新聞が、読み手に対してあまり親切でないことも確かです。その原因のひとつに、「宅配制度」があると私は考えています。

新聞といえば、定期購読をして毎日家まで配達してもらうものだ、と思っている方が大半でしょう。けれども、たとえばアメリカでは、日本に比べて定期購読の割合が低く、売店や自動販売機で購入する割合が高くなっています。

そのため、ふだん新聞を読んでいない人が、たまに新聞を買うということを想定して、いつ読んでもニュースの流れがわかるように、アメリカの新聞は、一本一本の記事が長く、「そもそもこのニュースは……」という解説や背景の説明が、いねいに書かれています。

①ウ

一方、日本の新聞は、定期購読している読者がほとんどなので、「読者は新聞を毎日隅から隅まで読んでいる」ことを前提にして書かれた記事が多くなっています。

別の見方をすれば、「ニュースの背景をわかりやすく書かないと、明日はもう新聞を買ってくれなくなってしまうかもしれない」という危機感が、希薄だともいえます。

①エ

そのため、日本の新聞では、ニュースの現状や途中経過しか書かれていないことが多いのです。たまたま何日か新聞を読んでいなかったような人が読むと、ニュースの全体像がつかめない、ということも起きてしまいます。

①オ

新聞が抱える問題点のひとつだといえるでしょう。かといって、どの記事にも背景や解説などが詳しく書かれるようになると、新聞自体が分厚くなってしまい、読むために大変な労力が必要になるかもしれません。

④ 難しい問題です。

では、どうすれば新聞を簡単に読めるようになるのでしょうか。

ずばり、新聞を毎日読むように習慣づけることです。特に、自分に関係のある面を開くように心がけていくことが大切です。

② メーカーに勤めている人なら経済面や企業面、さらに③ マーケット関連の面などを、貿易関係の仕事をしている人ならこれに国際面を加えて読むとよいでしょう。金融関係者なら、経済面に④ 投資・財務面、証券面などを読む必要があります。

その分野の専門紙を読むことで、その分野では見逃せない情報をつかむこともできるでしょう。

ともあれ、同じ新聞の同じ面を続けて読む習慣をつけると、書かれた記事の内容がよりよく理解できるようになってきます。

「これは、昨日の夕刊で読んだニュースの続報と、背景の説明だな。昨日の新聞には、『A銀行とB銀行が⑤ 合併』としか書いてなかったけれど、この二行が合併したのは、こんな理由だったのか」などと、わかるようになるのです。

⑤ そうなれば、新聞を読むことがだんだん面白くなってきました。

新聞社側も、「新聞離れ」が進んでいることに危機感を覚え、最近では、何とか⑥ という努力をしている様子がうかがえます。

たとえば、ニュースによく登場する言葉を解説するコーナーや、一週間に起きた出来事の全体像を説明するコーナーを設けるなど、工夫をする新聞も次第に増えてきています。

こういった解説コーナーも活用することで、日々のニュースが、よりはつきりと、より早く把握できるようになるはずです。

(池上彰『見通す力』日本放送出版協会による)

注1 希薄 Ⅱ 少なく薄いこと

注2 メーカー Ⅱ 製品をつくる会社

注3 マーケット Ⅱ 商品販売に関係する市場

注4 投資・財務面、証券面 Ⅱ 世の中のお金の流れなどがかかれた紙面

注5 合併 Ⅱ 二つ以上のものが合わさって一つになること

1 この文章では次の一文が欠けています。話の内容を考えておぎなうとき、どこに入るのが適当ですか。①ア ①オ から一つ選び、記号で書きなさい。

新聞を読む人が減っているということは、新聞を読むだけで、他人に差をつけることができますからです。

2 線②「新聞が、読み手に対してあまり親切でない」とありますが、これはなぜですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。
ア 今の日本の読者が求めるものはひとつひとつの詳しい背景や解説ではなく、世界中の情報をより多く簡単にまとめた記事だから
イ 記事の背景や解説により分厚くなった新聞は、車中で読むことの多い日本の読者にとって受け入れがたいものだと考えているから
ウ 「新聞離れ」が進む日本の若者の中に定期購読の習慣を作るため、あえていつでもニュースの流れがわかるように書いていないから
エ 新聞の宅配制度の割合が高い日本では、作り手側の意識として、わかりやすくなくても買ってもらえるはずだという期待感が強いから
オ 日本では多くが定期購読のため、新聞を毎日読者が読むことを前提として記事を書き、背景や解説を除くことが多いから

3 線③「たとえばアメリカでは」とありますが、なぜアメリカの新聞が比較として取り上げられているのですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 日本は宅配制度を全国的に広め、アメリカは売店などでの販売の道を選んだが、生じた問題はどちらも同じだから
イ 日本の定期購読習慣に対して、アメリカは売店などでの購読が主流のため、新聞に対する読者の期待の大きさがちがうから
ウ 定期購読習慣のある日本と売り上げが不確実なアメリカとは、読み手に対する気配りの観点が異なるから
エ 日本でもアメリカでも、読者の新聞に対する興味によって売り上げが大きく左右されていることがわかるから
オ 読者の自由に任されたアメリカの新聞購入方法は、定期購読が定着した日本の新聞制度の失敗をあらわにするから

4 線④「難しい問題です。」とありますが、何が難しいのですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 解説 イ 説明 ウ 制度 エ 理解 オ 解決

5 線⑤「そうならば、新聞を読むことがだんだん面白くなってきました。」とありますが、どのようになれば面白くなりますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア 新聞を毎日読んで得た知識を総合して、その先の状況を予想できるようになると面白くなる。

イ 新聞を毎日読むように習慣づけ、読み初めにまず自分に関係のある紙面を開くようにすると面白くなる。

ウ 同じ新聞の同じ面を続けて読む習慣をつけ、記事の内容がより理解できるようになると面白くなる。

エ 新聞を毎日続けて読むことによってインターネットより豊かな情報を得られるようになると面白くなる。

オ 自分に関係のある紙面に加えて、その分野の専門紙をアメリカのように店先で購入できるようになると面白くなる。

6 ⑥にあてはまることばとしてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 新聞をもう少し分厚くしよう イ 読みやすく、わかりやすくしよう ウ 毎日続けて読んでもらおう

エ 定期購読制度を廃止しよう オ グラフや図をもっと多く使用しよう

7 この文章で筆者がもつとも伝えたい内容を次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア これから社会に向けて巣立っていく若者たちには、新聞を毎日読む習慣をつけてもらい、書かれた記事の内容をよりよく理解したうえで、他人に差をつけられる楽しみを味わってもらいたい。

イ 日本の新聞宅配制度を逆に利用して、新聞自体が多少分厚くなることは気にせずに、記事にいい解説や背景をもっと盛りこんで、新しい読者層を広げていったほうがよい。

ウ 貿易や金融など経済にかかわっている人々は特に、自分に関係のある紙面に毎日続けて目を通して気を配れば、世界の変動など見逃せない情報を手に入れることができる。

エ 日本の新聞社は、定期購読者が離れていくことをおそれたりせずに、アメリカの親切的記事内容という特性を日本の宅配制度に加えた新しい方向性をもっとさぐるべきだ。

オ 日本の新聞事情を生かして、自分に関係の深い新聞紙面を毎日続けて読むことを習慣づけていくと、日々のニュースがよりはっきりと、より早く把握できる面白さが味わえる。

②4A 国語解答用紙

8	7	6	5	4	3	2	1	一
い	的							

4	3	2	1	二

	小計
--	----

5	4	3	2	1	三

	小計
--	----

7	6	5	4	3	2	1	四

7	6	5	4	3	2	1	五
						①	

受験番号	氏名
A	

	得点
--	----